

Injury Alert (傷害速報)類似事例

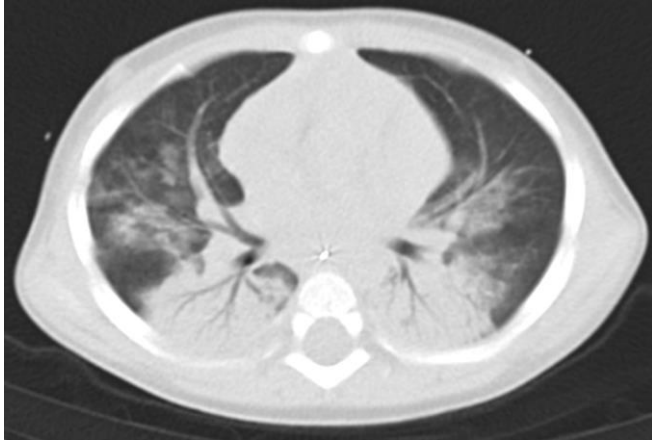
浴槽でこども用浮輪を使用中に発生した溺水 (No.4 浴槽用浮き輪による溺水、No.18 解決したはずの浴槽用浮き輪による溺水の類似事例 6)

事例	基本情報	年齢：0歳 9か月 性別：男児 体重：9kg 身長：68.7cm
	家族構成	父、母、兄 (1歳)
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		溺水、誤嚥性肺炎
医療費		入院 1,619,210円 外来 2,970円
原因対象	対象名称	胴体に装着するこども用浮輪 (No.4・No.18 類似事例 4. 図 1-a,b と同種の製品)
	入手経路 使用状況	2021年6月に祖父母から兄が貰ったもの。 母がひとりで2人のこどもを入浴させる時に使用していた。使用頻度は、週に3回程度。
発生状況	発生場所	自宅の浴室
	周囲の人 周囲の環境	母が兄と本児を一緒に入浴させていた。
	発生年月日	2023年1月X日(金) 午後5時0分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	<p>発生当日午後5時頃、本児はこども用浮輪を装着して浴槽内にいた。母と兄が先に脱衣所に移動して着替えをした。母が本児から目を離してから2~3分後、着替えを終えて浴室の扉をあけたところ、浮輪は本児の身体から完全に外れており、50cm程度お湯が張られた浴槽内で本児が仰向けで沈んでいるのを発見した。浮輪は使用していた向きとは上下逆になって浴槽に浮かんでおり、空気は抜けておらず、ベルトも外れていなかった。母が直ちに本児を浴槽から引き揚げたが、本児は全身チアノーゼを呈し、反応なく、呼吸をしていない状態であったので、胸骨圧迫を開始して救急要請した。</p> <p>救急隊が到着するまでに、本児の体動と自発呼吸が出現して、チアノーゼも改善した。1回嘔吐をしたが、その後は自発的に開眼した。救急隊接触時、意識レベル Japan Coma Scale (JCS) II. 刺激に応じて一時的に覚醒する状態、呼吸 40回 / 分、脈拍 160回 / 分、SpO₂ 90% (室内気)、血圧 100/56 mmHg、体温 36.8℃であった。酸素吸入(10 L / 分)により SpO₂は 93%に上昇した。</p>

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>午後 5 時 51 分、自宅近くの A 救命救急センターへ救急搬送された。病院到着時の意識レベルは、Glasgow Coma Scale (GCS) で 4-3-5 であった。救急外来滞在中に痙攣が群発し、ジアゼパム、フェノバルビタールなど抗けいれん薬静注後、意識障害が継続したために B 医療機関に収容依頼した。</p> <p>B 医療機関の迎え搬送チームが A 救命救急センターに到着した時点では、FiO₂ 0.5、酸素 10 L/分、加湿高流量経鼻カヌラ療法 (HFNC) 管理下で、呼吸数 77 / 分、SpO₂ 100%、心拍数 163 / 分、GCS 1-1-5 と意識障害を認めていた。搬送中の車内で HFNC の条件を酸素 18 L / 分に調整したところ、呼吸回数は 60 回 / 分へ減少したが、陥没呼吸は残存していた。B 医療機関の救急外来到着後に、気管挿管され PICU 収容された (図 1、2)。入院後、中枢神経管理、誤嚥性肺炎治療のための抗菌薬投与 (アンピシリン・スルバクタム、X+6 日まで) を行った。脳波検査の所見では発作波は認められず、意識レベルも改善し X+4 日に抜管された。抜管後は、意識清明で呼吸状態も安定しており X+11 日に退院となった。外来通院時も後遺症は認められなかった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>こども用浮輪、溺水、誤嚥性肺炎、浴槽</p>



【図 1】 当日の胸部 X 線検査：気管挿管後



【図 2】 当日の胸部 CT 検査(軸位断)：両肺野に無気肺、浸潤影が認められる。